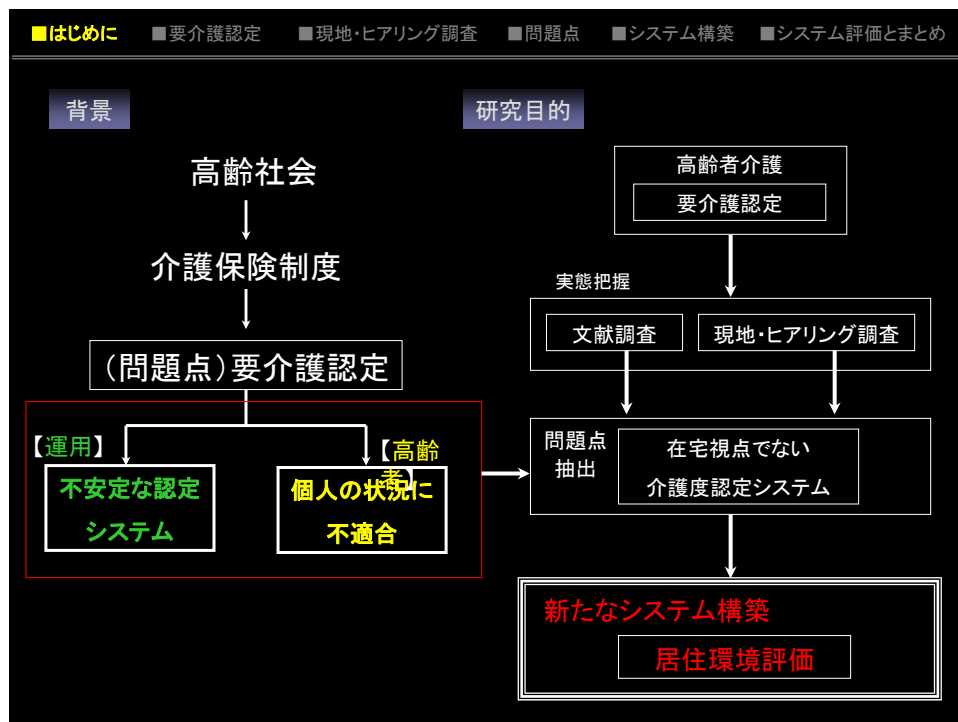


# 居住環境を考慮した介護度認定システムの構築

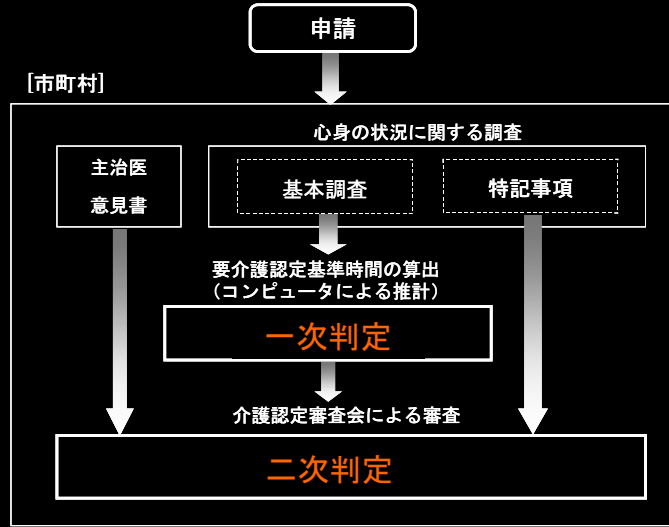
## Development of Authorized System of Nursing Standard in Residence Environment

中司 智子 (隠れ本間研究室)

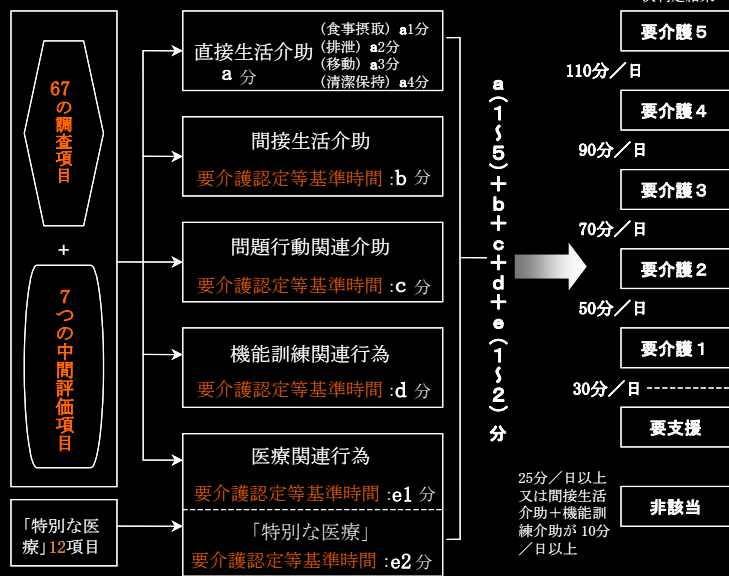


要介護認定制度

要介護認定 → 介護保険サービスの必要度を判定



従来の一次判定システム



### 現地調査・ヒアリング調査

#### ■施設サービスの現状

- ① 要介護認定によって退所させられた高齢者がいる。  
→ 特記事項記入が大切 → **調査員の能力によるばらつき**
- ② 入所待機者は70人程度、入所希望時期は2～3年後の人が多い。  
→ 在宅介護の増加 → **施設介護ベースの判定では不適合**

#### ■施設での介護時間と介護力

- ① 身体の症状が重いほど介護者に負担をかけるわけではない。  
→ **心身の状況のみの判定では不適合**
- ② 設備が整い、複数の介護士がいる施設介護と在宅介護では介護時間・介護力に差がある。  
→ **居住環境の違いは無視される**

### 要介護認定の問題点

#### 参考文献より

- ① **「在宅」視点**が抜け落ちた判定ソフト
- ② **個別性・地域性**の無視
- ③ 介護の**困難度・必要度**(介護過程)の無視 …

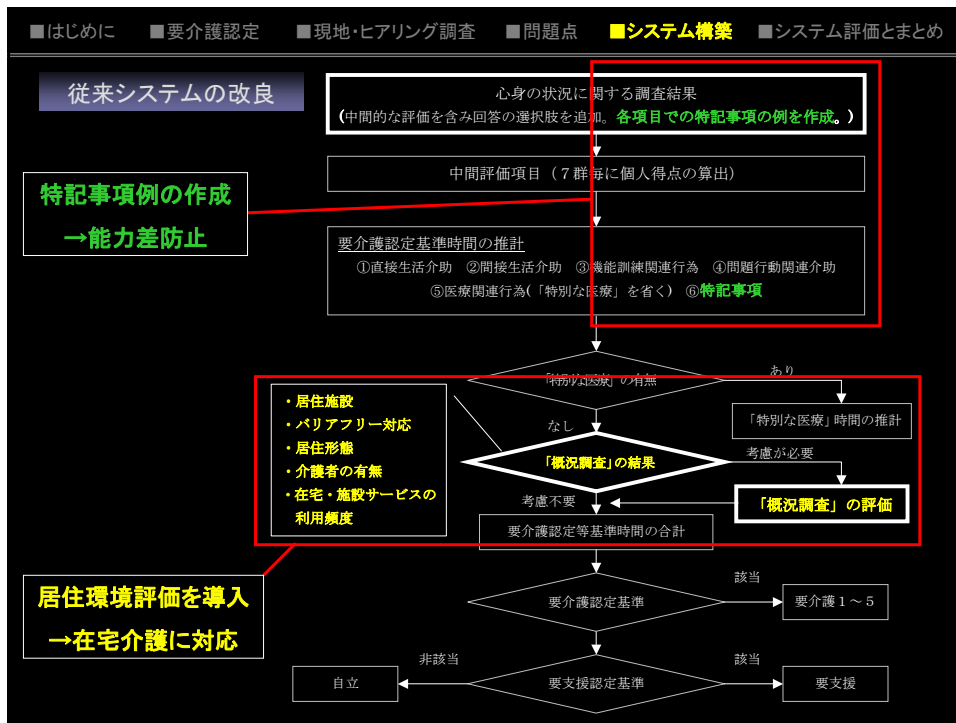
**個人の状況に  
不適合**

#### 現地調査・ヒアリング調査より

- ① 特記事項記入での**調査員によるばらつき**
- ② 一次判定に**特記事項は反映されない**
- ③ 二次判定の**基準が不明確** …

**不安定な認定  
システム**

**判定の精度に問題がある**



■はじめに ■要介護認定 ■現地・ヒアリング調査 ■問題点 ■システム構築 ■システム評価とまとめ

**システムの機能**

■一次判定機能

- ① 中間評価項目の点数算出
- ② 要介護認定等基準時間の算出
- ③ 要介護度の確定
- ④ 一次判定での例外・警告処理

■新たな機能

- ① 居住環境に関する項目の5段階評価
- ② レーダーチャート表示・分析
- ③ 居住環境評価での例外・警告処理
- ④ 特記事項例の選択・登録

図 1 一次判定画面

図 2 レーダーチャート

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
94.3	77.1	42.6	88.0	29.6
98.0	98.0	98.0	98.0	92.2

図 3 GUI表示画面

## 居住環境評価

### ■居住環境に関する項目

	在宅（居住者が10人以下の施設）	施設（居住者が10人以上の施設）
居住施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸建住宅、マンション等（一般・高齢者対応）</li> <li>シニア住宅・シニアマンション・シルバーハウジング等</li> <li>コレクティブハウジング、グループリビング（一般・高齢者対応）</li> <li>シルバーハウジング、シニア住宅</li> <li>シルバーマンション、ケア付き高齢者住宅</li> <li>グループホーム、小規模多機能ホーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別養護老人ホーム</li> <li>グループホーム</li> <li>医療施設（老人病院等）</li> <li>軽費老人ホーム・ケアハウス</li> <li>介護老人保健施設</li> <li>養護老人ホーム</li> <li>有料老人ホーム</li> </ul>
リハビリ対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作しやすい広いスペースの確保</li> <li>転倒事故を防ぐ手すりの設置</li> <li>簡単・安全・扱いやすい設備の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動が簡単な部屋のレイアウト</li> <li>床段差をなくした安心設計</li> </ul>
居住形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>独居</li> <li>昼間施設生活</li> <li>老夫婦</li> <li>共同生活</li> <li>昼間独居</li> <li>同居</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設生活</li> <li>昼間施設生活</li> <li>同居</li> <li>独居</li> <li>昼間独居</li> <li>老夫婦</li> <li>共同生活</li> </ul>
の介護無者	<ul style="list-style-type: none"> <li>配偶者（65歳以上）</li> <li>知人（65歳以上）</li> <li>配偶者（65歳未満）</li> <li>知人（65歳未満）</li> <li>その他の家族・親族（65歳以上）</li> <li>ヘルパー・介護士</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他の家族・親族（65歳未満）</li> <li>介護者なし</li> </ul>
利用頻度（在宅）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月0～5回</li> <li>・月5～10回</li> <li>・月10～15回</li> <li>・月15～20回</li> <li>・月20～25回</li> <li>・月25回～</li> </ul>	
利用頻度（施設）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月0～5回</li> <li>・月5～10回</li> <li>・月10～15回</li> <li>・月15～20回</li> <li>・月20～25回</li> <li>・月25回～</li> </ul>	

## 居住環境評価

### 4要素

### ■項目のレベル分け

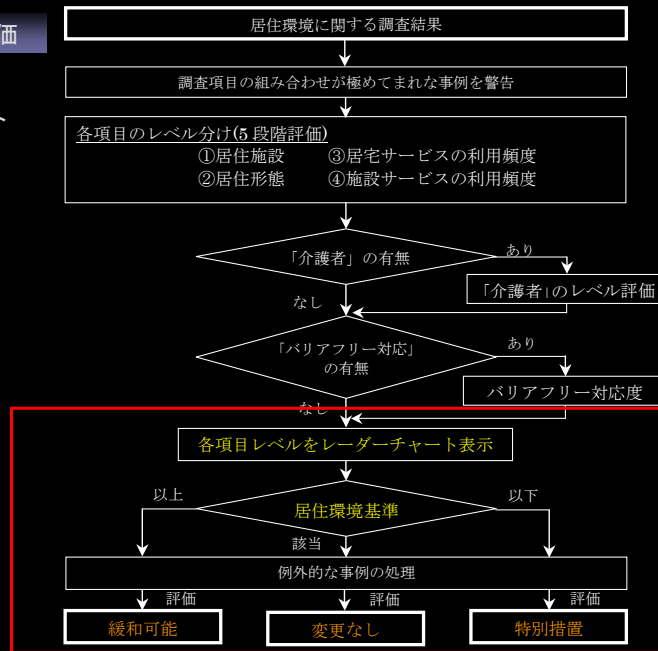
レベル	居住施設	設備	生活支援サービス	介護サービス	重度者対応
0	戸建住宅（一般） マンション等（一般）	—	—	—	—
	コレクティブハウジング（一般） グループリビング（一般）	—	—	—	—
	戸建住宅（高齢者対応） マンション等（高齢者対応）	○	—	—	—
1	コレクティブハウジング（高齢者対応） グループリビング（高齢者対応）	○	—	—	—
	シルバーハウジング シルバーピア シニア住宅	○	○	—	—
2	シルバーマンション ケア付き高齢者住宅 ケア付きマンション	○	○	△	—
3	グループホーム 小規模多機能ホーム	○	○	○	△
4	施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、ケアハウス、有料・軽費老人ホーム等）	○	○	○	○

不足

充実

居住環境評価

■提案した  
フローチャート



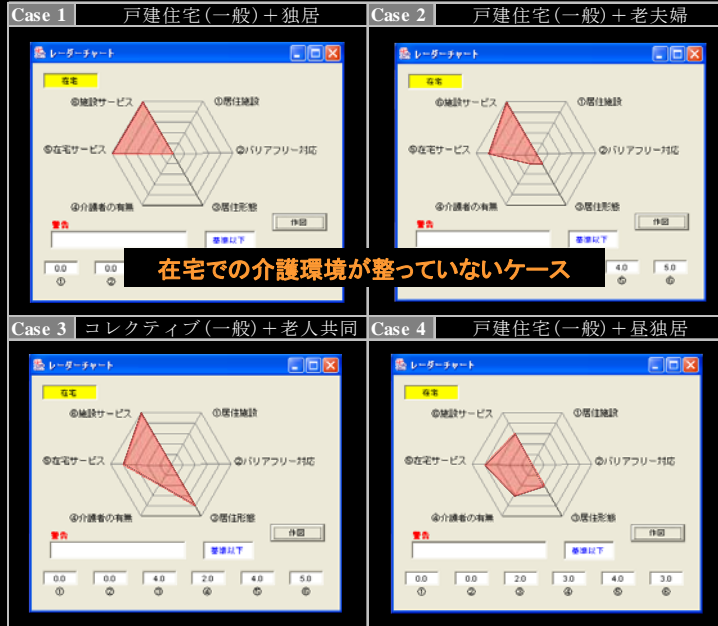
居住環境評価(レーダーチャート分析)

■基準以下 = 一次判定結果に対して、居住環境の面から要介護度を上げる必要がある(「特別措置」と考えられるケース)

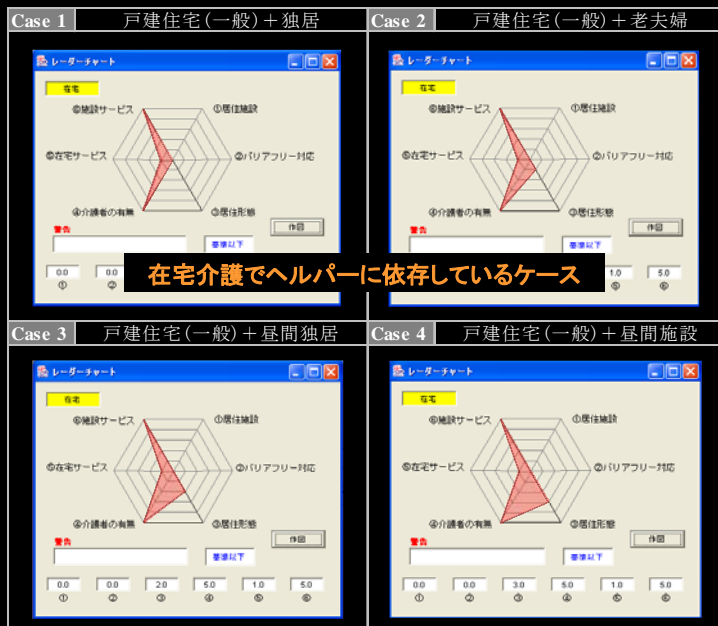
■基準以上 = 一次判定結果に対して、居住環境の面から要介護度を緩和できる(「緩和措置」と考えられるケース)

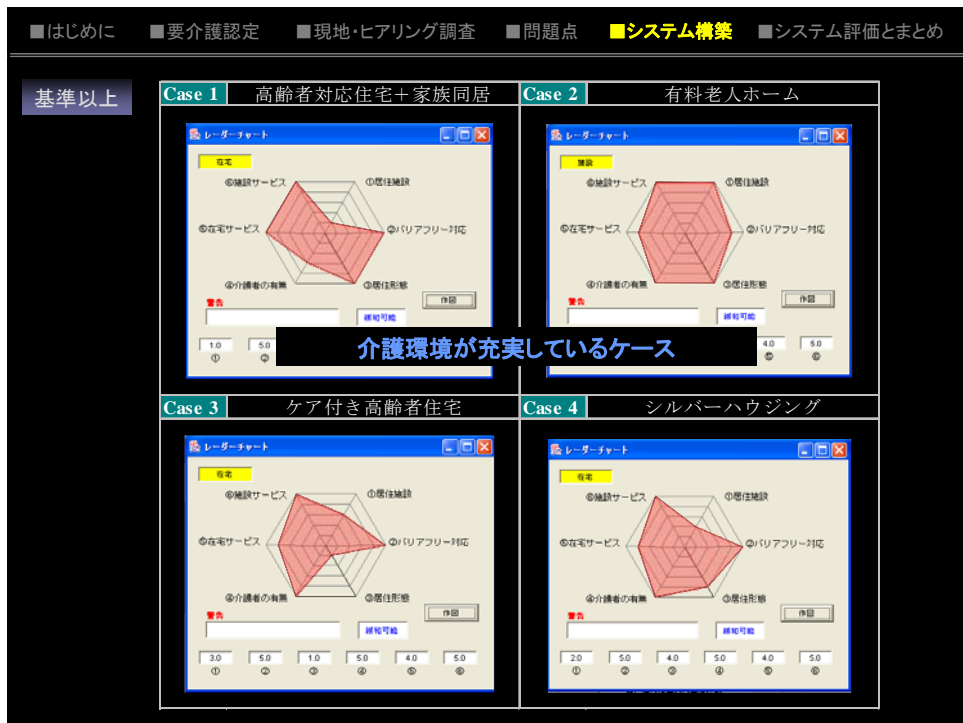


基準以下



基準以下





■はじめに ■要介護認定 ■現地・ヒアリング調査 ■問題点 ■システム構築 ■システム評価とまとめ

### システムの評価

- ①従来判定ソフト機能の維持  
(要介護認定等基準時間の算出、要介護度の確定等)
- ②特記事項例の選択・登録により調査員の能力差を防止
- ③居住環境評価により、介護環境の差を考慮した判定が可能
- ④居住環境評価結果のレーダーチャート表示で特徴を分析



## まとめ

在宅視点の抜け落ちた一次判定ソフト



居住環境を考慮したシステムの構築



- ①より適切で安定した判定結果の算出
- ②二次判定の作業時間短縮
- ③地域性をデータベース化→広範囲で利用可能

## 今後の展開

- 本システムをテスト使用し、システムの妥当性を検証・改善していく。
- 各地域に見合ったシステムとなるように、ファジィ理論やニューラルネットワークを利用し、学習能力機能をシステムに組み込む。